

中和地区3市1町障害者自立支援協議会  
令和5年度 第3回こども部会 議事録

開催日時 令和5年10月18日(水) 10:00~

開催場所 葛城市福祉総合ステーション2階会議室

【配布資料】

次第、Q-SACCSシート(葛城市)

【出席者】 ※こども部会名簿順

香芝市社協1名、葛城市社協1名、もちつもたれつ1名、愛の集い学園2名、しゅ〜く2名、どんぐり2名、葛城育成会1名、葛城市こども・若者サポートセンター2名、大淀養護学校1名、西和養護学校1名、大和高田市2名、香芝市1名、葛城市3名 計:20名

1. 『勉強会』 本田医師(こどもとかぞくの診療所)

6月のこども部会に参加した時に、コロンビアのジャングルで子ども4人が40日生き延びた話をした。日本は制度が整っていて、デジタル化が進み、道具を発達させていく社会になっているが、日本の子どもがジャングルで生き残れるかと聞かれると、自信がない。そもそも、そこを目指していないとも思う。子ども達が社会に適應できるようにすることも大切だが、子ども達自身が生きる力を備えることも大切だと感じている。

◆養老孟司さんの『虫眼とアニ眼』の一節紹介

人が集まって話し合うと、どうしてもテーマを決め、それについて意見を出そうとする。石ころを生かせる人は、目の前のものの生かし方を知っている人だと思う。

◆海外で言葉が通じない状況で、どのように自分紹介をするか。

石ころを生かすのも、自分を生かすのも似ていて、そのものに力をつけるということだと思う。テーブルに石ころをおいて教材にするということは、ジャングルで子どもたちがおかれた状況に似ている。その子たちの中に力がなければ生き延びられない。生き延びられたということは、その子達の中に力が備わっていたということ。

自分の中に力をつけ、相手の中にも力をつけられるようにすることが大事だと感じている。

◆「いまここ」

虫眼とアニ眼の一節の状況でも、テーマを決めて話し合い、答えを出すことばかり考えているが、養老さんからすれば、ポイントはそこではない。

二人一組になって、一人が相手の腕を掴み、掴まれた人はそれを解こうとする。多くの人は掴まれた部分をなんとかしようとするが、そこをなんとかしようと頑張っても振りほどくのは難しいが、掴まれた部分は動かさずに、自分の肩を回すことで、相手の力が相手に伝わって後ろによろめく。これは武術だが、非常に示唆に富んでいる。

「イジメをなくすこと」ばかりに一生懸命になるのではなく、自分の中心の根本のところをどうにかすることを考えてみるといい。

## 2. 発達障害等伴走型支援体制検討事業、Q-SACCSシート（葛城市）紹介

奈良県が今年度に始めた新事業『発達障害者等伴走型支援体制検討事業』について

⇒発達障害者（児）に対する包括的かつ継続的な支援体制を検討するために、地域資源を見える化するるとともに、円滑な支援体制を整備するための改善策の検討を行う事業。

Q-SACCSシートについて

⇒「支援の隙間」と「そのつなぎめ」を見える化するためのツールとして開発されたシート。子どもに関係する課が集まり、各課でおこなっている子どもに対する事業や取組を挙げてひとつのシートにまとめ、市の強みや課題を把握することが目的。

なお、横軸は年齢、縦軸（レベルⅠ～Ⅲ）は対象児を表している。レベルⅠ（日常生活水準）は、すべてのお子さんに対する事業等、レベルⅡ（専門療育的支援）は、発達障がいやその疑いのあるお子さんに対する事業等、レベルⅢ（医療的支援）は、医療的支援が必要なお子さんへの事業等を挙げるようになっている。

## 3. 情報共有

大和高田市相談支援連絡会研修会の案内

### ◆ 第4回こども部会

令和5年12月20日（水）10:00～ 葛城市福祉総合ステーション2階会議室